

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修でホームの理念を学ぶと共に、当社の理念(credo)を事務所内と正面玄関に掲示してあります。スタッフは credo を毎朝復唱し、理念の共有に努め、実践しています。	これまで毎朝唱和し共有してきた credo (理念) は、職員が読み取りやすく理解しやすい文章で整理されている。玄関を入るとそれは掲示されていて、笑顔と利用者目線を大切にしていることがわかる。	理念は事業所が目指すサービスの在り方を示したもので、常に立ち戻る根本的な考えになります。職員で共有し意識づけをして日々話し合い実践につなげていただくことを期待します。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、地区の行事や、ゴミステーションの清掃、共同募金などの活動にも協力しています。地区の神楽舞いや舞踊サークルも来て下さいます。近所の方からは野菜を頂く事もあります。	これまでと同じように本町地区と中島東地区との交流に努め、地域との関係の重要性を理解している。秋祭りなどの地域行事では、地域の方々から差し入れがあったりお神楽が立ち寄るなど地域の方々からの積極的な関わりもいただいている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区の民生児童委員協議会定例会に参加し、ホームの事業所紹介を行い、今後は地域包括ケアにも協力して行く予定です。福祉の職場体験者の受け入れも行っていきます。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者状況やホームの様子を報告しています。質疑応答では活発な意見交換が行われています。会議内容の議事録を作成し、サービス向上に活用しています。	今年度は25年5月20日、10月11日の2回開催し、意見交換を行っている。会議内容は議事録に詳しく記録されている。	定期的な開催は推進員の意欲にもつながりますが、報告のみではなく率直な意見をいただけるような関係を作りをめざしながら定期的な開催することを期待します。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を中心に、長野市介護保険課や、地域包括支援センター、地区の民生委員や福祉推進委員と連絡を取り合い、協力関係を築いています。	これまでに連携した事例は多くある。これまでのように地域包括支援センター、長野市介護保険課など関係機関と連携できるよう努めている。	連携で地区住民が必要としている支援の実現の取り組みや地域ぐるみの課題への取り組みに期待します。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会を行い、スタッフが具体的な行為や弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでおります。ホームで身体拘束を行った事はありません。	玄関は日中施錠せずチャイムで出入を確認できるようになっている。外出者に対しては声をかける・付き添う・見守るなど迅速に対応するなど、拘束しないケアに取り組んでいる。	職員は弊害についても理解して、実践していることや実践までの経緯実践後の検証の過程などの取り組みを記録するなど、情報の把握や共有ができることを期待します。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止についての研修会を勉強会を開催し、虐待の防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様に後見人制度を利用している方が居ますので、制度について学習する機会を設けています。関係者と関わり合う事で、制度を活用できる様に支援しています。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約者と共に読み合わせを行い、内容について不明な点などがあった場合は、理解して頂けるまで説明しています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置しています。直接スタッフに、意見や要望を話される方も居ます。内容を引き継ぎ、話し合いを行い、運営に反映させています。	相談ボックスや口頭で家族や利用者の意見要望を聞く仕組みはある。利用者一人ひとりの様子を毎月手書きで家族に伝える新たな仕組みもでき、家族からは喜ばれている。家族はこれまで以上に意欲的に意見をしやすく、家族の率直な意見等を前向きに活かす体制が新たにできはじめてい	新たな取り組みが家族などの意見や要望を引き出すきっかけになるよう工夫されることを期待します。そして家族の声を大切にしている気持ちの伝え方のひとつとして家族にフィードバックする仕組みなどの工夫にも期待します
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の相談窓口になっています。定例会議の際や、毎朝の引き継ぎ時を始め、随時意見や提案を聞く体制があります。	'サンクスカード'は職員がお互いの感謝の気持ちなどを伝えるカードで、今後はこのカードの活用で職員からの提案や意見を引き出せるような取り組みにつなげる。本部では、個々の職員や管理者とのコミュニケーションを大切にして耳を傾けて、働く意欲の向上と環境づくりに取り組んでい	新たに始まった職員の意欲の向上につながる新たな仕組みを機能させ職員の意欲の向上につなげることを期待します。そして本部と日常的に連携して実践していくことを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働者共済に加入しています。スポーツジムの利用を促し、海外視察研修を行うなど、スタッフがやりがいと向上心を持って働ける様に、福利厚生制度を取り入れ、職場環境と条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフに研修会やセミナーへの出席や参加を促し、常にスタッフがスキルアップ出来る様に努めています。社内年間研修計画を作成し実施しています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、スタッフに講演会や勉強会などへの出席や参加を勧め、サービスの質の向上の為に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に必ず事前面談を行う事を心掛けています。御本人や御家族はもちろん、ケアマネや関係機関から情報を収集する事で本人との関係作りに努めています。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談の段階から、御家族の意見や要望に耳を傾ける事を心掛けています。御家族が安心してサービスを利用して頂ける様に、信頼関係作りに努めています。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	広い視野を持ち、様々な情報を分析し、関係者各位と意見交換をする事でサービスを見極め、的確な支援が行える様に努めています。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	私達は、常に利用者様と対等な立場で接する事を心掛け、同じ目線で暮らす事で、日常生活を共に過ごす家族としての関係を築いています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との絆が大切な事を私達は理解しています。また、御家族も利用者様を支え合う大切なチームの一員である事を踏まえ、共に支え合う関係を築いています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が断たれる喪失感の大きさを私達は理解しています。今まで築いて来た人間関係や、懐かしい場所との関係が継続出来る支援を行っています。	美容院など利用者が行きたい場所に出かける時には、ご家族の協力も得るなどして、ご本人の気持ちに応えるよう努め、馴染みの者、物、場所を断ち切れないような支援に努めている。	事業所は利用者さんやご家族の本位を把握して、職員との情報の交換や共有に努め、今以上に具体的な支援につなげることを期待します。
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立がいかに寂しい事かを私達は理解しています。同じ屋根の下で暮らす家族として、利用者様とスタッフが支え合いながら、共に楽しく暮らして頂ける様に支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自宅に戻ったり他施設に入居し、サービスが終了した後でも、必要に応じて、相談などのフォローを行っています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが積極的に利用者様に関わる事を心掛け、様々なシートを導入する事で、一人ひとりの希望や意向を把握する様に取り組んでいます。	日常の関わりの中で思いや意向を把握している。	ケアの基本情報としても大切な内容です。例えば利用者さんの状態で「聞いても無理」と決めつけず、利用者一人ひとりの思いや意向に関心を持ち引き出す工夫をすることを期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談からの情報収集に加え、日常的な会話の中から、今までの暮らしのバックグラウンドを聞き出す取り組みをしています。必要に応じては御家族や関係者からも情報を聞く場合もあります。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	様々なケアシートや個別記録などを活用する事で、一人ひとりの生活サイクルを知り、個々の状況や能力を把握する取り組みをしています。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様のニーズや御家族の意見や希望を元に、関係各位と話し合いをしながら介護計画を作成しています。必要に応じてカンファレンスを行っています。	定期的なカンファレンスや話し合いなどは行われていないが、計画作成担当者・管理者・看護師・介護士などが日常的に情報交換を行っている。	介護計画は、ご本人がよりよく暮らすための課題やケアの在り方について関係者が意見や気付きを出し合い話し合った結果で作成されます。定期的に全職員が話し合い見直しをしてカンファレンスやモニタリングを行いプラン作成に活かせることを期待します。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス提供記録やケース記録は利用者様毎に記載しています。容態や状況に応じて、別途の記録用紙を作成する事で、情報の共有に努めています。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一方的な固定観念などに捉われずに、時と場合と必要に応じて、臨機応変で柔軟な対応を行える様に、取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉タクシー、訪問理容師など、地域の資源を活用し、豊かで安全な暮らしが行える様に支援しています。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も馴染みの掛り付け医に主治医を引き継い下さる様に依頼しています。御利用者が健全に暮らせるように、適宜情報提供を行い、必要に応じては往診の依頼をしています。	かかりつけ医は従前のかかりつけ医を尊重している。また状況に応じてご本人やご家族の希望に沿った医療が受けられるよう努力している。	現在、状況に応じて本人や家族が希望する医師による医療をうけることができるよう支援する仕組みを作っています。この仕組みが機能することを期待します。
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員も引き継ぎに出席し、利用者様の容態の把握に努めています。利用者様の容態に応じて、随時勉強会を開催しています。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、早急に医療機関へ情報提供や連絡調整を行います。退院時には事前に病院でのカンファレンス開催を依頼し、情報提供に努めています。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に関する指針を作成し、御家族や利用者様に同意を得ています。万が一の事態が発生した場合は、早急にチームを立ち上げ、支援に取り組んでいます。ターミナルケアの実践事例もあります。	これまで、「重度化した場合における対応に係わる指針」を作成し、ご家族とも話合ってきた。看取りについてはかかりつけ医と連携し関係者とチームで支援できるよう新たな取り組みを始めている。	事業所の対応力が変化することのないよう看護師と連携した取り組みがあり、家族からの協力もある。この内容は今後は事業所全体で全職員で取り組めるよう職員がスキルアップしていくことを期待します。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修を行い緊急時に対して備えています。また、マニュアルやフローチャートを作成し、全職員が急変時や緊急時に対応出来る様に努めています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年次計画に基づき防災訓練を行い、避難誘導訓練や防災に関する知識や技術を身に付けています。ホームには若干の食糧や水の備蓄もあります。地域にも協力を依頼してあります。	設置されている通報装置やスプリンクラーの使い方などの研修と火災時の避難訓練を実施した。今年度避難訓練は1回のみだが、消防署の協力をいただき細かな内容に触れた訓練を実施した。水や食料の備蓄があり管理もされている。	防火扉の設置もあるなど設備的にも防災意識が高い。防火管理者が退職した場合などでも継続的な意識の高さを維持できるよう工夫することを期待します。水害警戒地域であり、地域との連携や情報共有など地域との双方のつながりの継続を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルを作成し、社内研修会を行う事で、個々の人格を尊重し、一人ひとりに適した声掛けや対応を行っています。カーテンや暖簾を設置してプライバシーの保護に努めています。	個人情報の保護に関する研修を実施するなど全職員が、誇りやプライバシー確保について意識している。例えば浴室やトイレの出入り口の扉の手前にはカーテンも設置している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの積極的な関わり合いや、利用者様のさりげない仕草や態度から、希望や意志を感じ取れる様に努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	私達は、人生の主役はあくまでも利用者様ご本人である事を知っています。一人ひとりが、それぞれが希望するペースで暮らせる様に心掛けています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内の服装は自由です。衣類や装飾品などは、利用者様と一緒に選べるシステムがあります。個人の好みや希望に応じた、その人らしい身だしなみやおしゃれをして頂ける事を心掛けています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフと利用者様が一緒に食事の準備や後片付けを行います。一緒に同じ場所で食事する事で、楽しい雰囲気の中で食事をすることができます。	積極的に配膳や片付けに参加している利用者さんもいて、自分の役割の一つとして誇らしげな表情で準備などに参加している。広いゆったりとしたフロアで職員と一緒に食事を楽しんでいる。家庭的でひと手間を惜しまず彩や種類が豊かで家庭的なメニューである。	工夫や配慮されたメニューでした。調理の担当者はご苦労が多いかと思います。利用者の様子や職員の意見を参考に今後も継続していただけることを期待します。そして家族や訪問客の方にも気楽に食べて行っていただけるような関係づくりに期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や能力に応じ、御本人の嗜好を知る事で、栄養や水分を摂取していただけるよう支援しています。必要に応じて食事の形態を変更したり、栄養補助食品などを追加し対応しています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの能力や口腔内の状態に応じて、毎食後に口腔ケアを行っています。チェック表を作成し、口腔ケアを管理しています。また毎月歯科衛生士さんに口腔ケアの指導をして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により個々の排泄パターンを把握し介助しています。出来るだけトイレで排泄行為をして頂ける様に心掛けていますが、機能的に困難な方には、トイレや尿取りパットの利用も考慮しています。	チェック表記録をもとに排泄パターンを把握しトイレでの排泄の自立を支援している。トイレは明るくて広く清潔感がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の症状や状態に応じて、水分摂取や運動などの便秘予防に取り組んでいます。チェック表を作成する事し、排便ペースを確認しています。必要に応じては医療機関に相談する場合があります。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	状況に応じて希望する時間に気持ちよく入浴して頂いています。チェック表により週2回の入浴を実施しています。ADLに応じて、シャワー浴や清拭で代替えする場合があります。	入浴は午前中に自由に楽しめるよう支援している。希望に応じて夜など時間に関係なく楽しめるようにしている。利用者に無理強いをすることなく一人一人の意向に合った支援をしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様ご本人が希望する時間に休息頂いています。寝具の種類も希望されるスタイルで構いません。自室だけでなく、ソファや畳も休息場所として使用して頂けます。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報をファイリングし、情報を共有しています。看護師を中心に、適切な内服支援や、状態変化の確認が行える様になっています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好や希望に応じて気分転換が行える様に、歌集、ビデオ、折り紙、本、塗り絵などが用意してあり、何時でも作業が出来るスペースを用意しています。ます。縫物や貼り絵、習字を行う用意もあります。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御家族にも協力して頂き、希望時に外出して頂ける様に支援しています。屋外の散歩や、畑仕事、草取り、買物などの外出は日常的に行っています。	外出支援ができない時もあり、家族からは外出支援の希望があるので積極的に取り組む体制を作っている。	ひとり一人の思いに添うようアセスメントとモニタリングを全職員で繰り返し実施するなどして、日常的な外出ができるように個別の支援の工夫をされることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて買い物が行えるように支援をしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族にもご理解頂き、要望があれば電話が掛けられます。携帯電話や固定電話をお持ちの方も居ます。手紙の取り次ぎも行っており、毎年正月には御家族宛てに年賀状を書いて出しています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装は落ち着いた木目を基本とし、落ち着いた装飾を心掛けています。庭に咲く季節の花々を飾り、雛人形やクリスマスツリーなどの季節毎の飾り付けを行っています。ホワイトボードを設置しコミュニケーションツールとしています。	共有の空間は利用者にとって使いやすくなっていて、のびのびできる広い空間を伴っている。浴室は家庭的でこじんまりしていて使いやすい。トイレは清潔感がある。自由にゲームやボールを使って何気なく楽しむことができる環境になっている。	共有する家具の配置変えをしたばかりで、慣れない利用者さんもいるので、表情や様子を見ながら、職員が配慮している状況でしたが、家庭的で生活感のある空間がより落ちついた感じでした。今後も利用者視線で工夫することを期待します。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い空間をテーブルとソファのスペースに分け活用し、様々な場所に椅子を設け、好きな場所で過ごせる配慮をしています。ホール内には家具を配置し、気分や状況に応じた居場所で過ごせる様に工夫しています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋内は、利用者様のお好きな様に家具などを配置しています。使い慣れた家具や思い出の品などを持ち込んでいただく事で、本人の居心地が良い様に工夫をしています。	居室には夫婦部屋が用意されていたり、部屋で洗面ができるように配慮されている。部屋ごとにクーラーの設置や電話線が配線されている。馴染みの品の持ち込みができて、ご本人が落ち着いて過ごせる部屋は広くてゆったりしていてそれぞれの個性的な部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーで安全な環境になっています。手すりの設置や個室内のカウンターなど、出来るだけ自立して生活していただける様な工夫も施してあります。		